

# エネルギー資源開発等に関する研究体制維持を可能とする人材確保

工ネ環地研 地域工ネG

背景

- 地熱・温泉資源、地域燃料資源（石炭・天然ガス等）の開発及び適正な利活用に関する調査・研究を進めている
- 地球物理学、地球化学、資源地質学の各分野による調査データを基に統合して解釈する総合研究（三位一体）
- その中でも資源地質学分野では、調査データに基づく地下構造の解釈・モデル構築等の重要な役割を担う

## 本道のエネルギー資源の現状

- ゼロカーボン北海道の達成に向け、エネルギー資源の地産地消の動きが急速に進展
- 環境的な側面から地域の地熱・温泉資源に加えて温泉付随ガス等の天然ガスにも注目が集まる

⇒資源地質を担ってきた主査の退職に伴い、現在の調査・研究体制の維持が困難に！

研究の展開

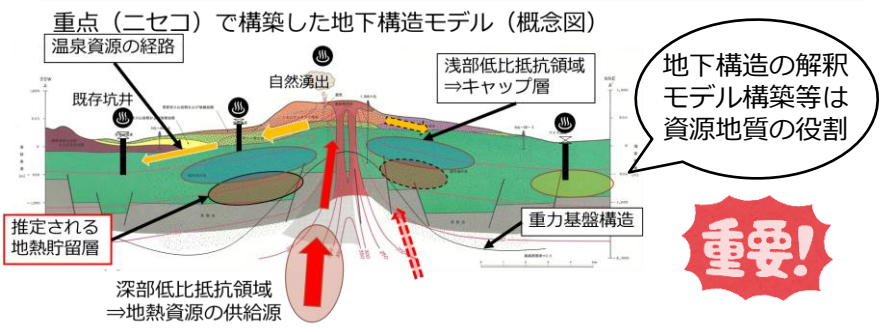
**現** 各分野の調査結果をもとに、エネルギー資源の開発や適正な利活用に関する調査・研究を進めている

地球物理学 + 地球化学 + 資源地質学

R7年度末で資源地質学の担当主査が退職の予定

地球物理学 + 地球化学 + 資源地質学

⇒三位一体で進めてきた調査・研究体制が困難に



## 資源地質の専門知識を有する人材を確保

地球物理学 + 地球化学 + 資源地質学

- 地球物理学的データ（地下の密度分布、比抵抗分布など）⇒地質構造へ変換し、地下構造モデルへの反映へ
- 地球化学的データ（温泉など地下流体の化学組成）⇒流体移動経路を検討し、地下構造モデルへの反映へ
- 坑井地質、検層データ（坑井掘削で得られる実測データ）⇒理解・解釈し、地下構造モデルへの反映へ

エネルギー資源に関する調査・研究体制の維持が可能に

求める人材

- 他部には表層の地質を担える研究職員はいるものの、**地下構造の解釈・モデル構築**を担える研究員はいない
- エネルギー資源の調査・研究体制を維持するためには、**資源地質学又は資源工学**に関する専門知識を有する人材の確保が喫緊の課題

## 主な職務

- エネルギー資源の開発、適正な利活用に関する調査・研究
- 物理探査データや坑井地質情報等に基づいた**地下構造の解釈・モデル構築**

# 職場紹介：資源エネルギー部



説明者：鈴木隆広（資源エネルギー部 部長）

札幌市生まれ、札幌市育ちの55歳

出身：北海道大学理学部地質学鉱物学科卒

専門：地熱・温泉（開発・適正利用・資源管理、発電・熱利用）

## 地域エネルギーグループ

### さがす

地下にあるエネルギーを**探す**研究、  
適切に利用する研究を行っています  
物理探査、資源量調査、モニタリング

### ポイント

#### [アピールポイント]

川上側のエネルギーを探す研究から  
川下側のエネルギーを使う研究まで  
一貫（協力）して取り組めることが  
資源エネルギー部の最大の魅力です  
地熱温泉、天然ガス、地下水

## エネルギーシステムグループ

### つくる

地域の未利用資源から燃料（エネルギー）を  
**作る**研究をしています

可燃ゴミ→固形燃料、農産残差→チップ

### ためる

電気や熱エネルギーを**貯めて**、必要時に使う  
研究や融通して使う研究をしています

リユースバッテリー再利用、太陽熱蓄熱

### つかう

エネルギーを効率良く**使う**ための機器開発や  
システム開発について研究しています

高灰分対応ボイラの開発、地下水熱利用ヒートポンプ

# 職場紹介：資源エネルギー部

ある勤務日の様子を見てみましょう・・・



温泉の井戸に水位計を設置



温泉の湧出温度を測定



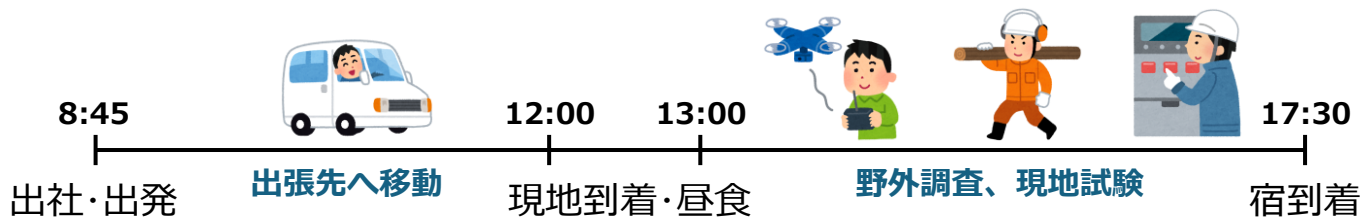
太陽熱集熱器を屋上に設置




燃料供給装置を現地で調整

## ■出張（1泊2日）

出張先でのご当地グルメも楽しみのひとつ



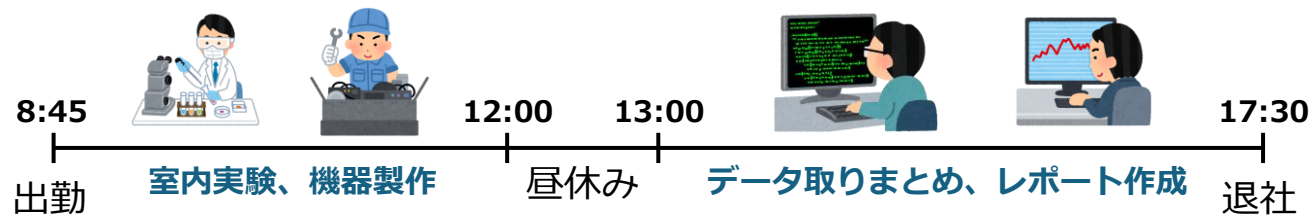
飛行機や電車で現地へ移動することもあります



## ■在庁勤務

時差出勤や在宅勤務のほかにフレックス勤務もあります！

時差出勤は早出の7:00から遅出の11:15まで選択できます！



野球やランニングをしたり本を読んだり自由に過ごせます